

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	特定非営利活動法人リーブ・ウィズ・ドリーム	作成日	3月22日
事業名	「地域防災力の向上を高める 防災バリアフリーマップづくり」 -いざという時を平時から考える-		
協働団体名 及び役割 (適宜枠を増減して記載してください)	団体名	役割	
	申請団体(自団体)	講習会・まち歩き調査の企画、運営。広報。地図の企画作成と発信。協力団体・企業・大学との連携調整。	
	担当課	関連する文京区各課、防災に課題感のある町会など地域コミュニティとの情報共有、広報、地図掲載情報の確認とアドバイス	
	地域コミュニティ	地図作成地域の選定、講習会への参加、地域コミュニティへ講習会参加呼びかけ	
	東京ボランティア・市民活動センター	防災まち歩き調査講習会講師、防災まち歩き調査、ファシリテーターの人選と手配	
	(一社)災害協働サポート東京	防災まち歩き調査講師、ファシリテーター	
	なかの生涯学習サポーターの会	講習会開催協力、まち歩き調査参加、講習会・振り返り時のファシリテーター	
	(一社) D&A Networks	地図編集作成	
	CLUB NECO	地図裏面・地図表紙編集作成・校正・印刷	
	今昔千写	講習会・防災イベントチラシデザイン	
	ユメックス(株)	地図を団体ホームページに掲載	
	大学ボランティア	講習会参加	
	バリアフリーサークル With you、スマイルwith K	講習会・防災イベント参加、追加調査協力、講習会・振り返り時のファシリテーター	
	日本ブローアー(株)	講習会資料印刷	

<p>提案背景・目的</p> <p>エントリーシートと同様で可</p>	<p>昨今の地震多発により、防災・減災への意識が高まる中、平時からの情報収集と対策が重要となっています。特に障がい者や高齢者など移動困難者に関する情報は既存のハザードマップでは十分とは言えず、地域での共有が課題。そこで、地域住民と共に防災・バリアフリーマップを作成し、実際にまちを歩いて調査・体験することで、防災を自分事として捉え、必要な備えや課題を理解することができる。この取り組みは、要配慮者への理解促進と支援体制の構築、地域のつながり強化につながり、災害時に助け合える地域防災力の向上を目的としている。</p>
<p>事業実施概要</p> <p>事業実施の準備も含めてい</p>	<p>① 4月：区役所内防災危機管理課にて、スタートアップ会議をおこなった。区防災危機管理課、区民課、社会福祉協議会、団体金子が出席した。</p> <p>①③ 7月：駒込地域活動センターにて防災危機管理課、社会福祉協議会、団体金子が町会への説明会に出席し、防災・バリアフリーマップ作り事業について説明した。講習会日時と防災・バリアフリーマップの内容について町会の皆様からご意見を伺った。町会からの参加者募集を依頼した。</p> <p>② 8月：東京ボランティア・市民活動センター・加納さんに防災まち歩き講師参加についてご相談し、一般社団法人災害協働サポート東京の福田さんを紹介頂いた。</p> <p>⑤ 社会福祉協議会と団体でボランティアの募集を開始した。</p> <p>⑩ 10月：社会福祉協議会、団体金子と一般社団法人災害協働サポート東京の福田さん、東京ボランティア・市民活動センター間瀬さんを中心に、防災まち歩き調査のための事前まち歩きを1回おこなった。</p> <p>⑦ 10月5日：第1回講習会を駒込地域活動センター・多目的室で開催した。吉片町会、神明西部町会、神明上町会、富士前町会、本駒自治会を中心に25名が参加した。区防災危機管理課より区の防災についての考え方をお話頂いた。</p> <p>一般社団法人災害協働サポート東京の福田講師より防災まち歩き調査についての講習後、5つの班にわかれて防災まち歩き調査をおこなった。調査終了後に情報の整理と地図への清書、振り返りをおこなった。</p> <p>⑧ 10月25日：第2回講習会・バリアフリーまち歩き調査を駒込地域活動センターで開催した。吉片町会、神明西部町会、神明上町会、富士前町会、本駒自治会を中心に33名が参加した。団体金子よりバリアフリーまち歩き調査についての講習の後5つの班にわかれてまち歩き調査をおこなった。調査後、情報の整理と地図への清書、振り返りをおこなった。</p>

つ、だれが、どこで、何を
行ったのかを具体的に記載
してください

⑥ 11月：区役所内防災危機管理課にて、中間報告会をおこなった。

⑨ 11月22日：駒込地域活動センターで第3回講習会にて講習会全体の振り返りと地図情報の校正、地図に掲載する情報についてのグループワークを5つの班で開催し区防災危機管理課、吉片町会、神明西部町会、神明上町会、富士前町会、本駒自治会、大学生を中心22名が参加した。

⑮ 2026年2月：防災・バリアフリーマップ完成

⑪ 2月21日：富士神社境内にて町会関係者に地図を贈呈した。防災イベントも併せて開催した親子あわせて51名が参加した。イベントではプレーカーを中心に楽器やおままごと、昔遊びなどの遊び場や子供向け、大人向けの防災講座や遊びで子ども達に防災を教えるコーナーがあった。

⑰ 3月：区役所防災危機管理課で最終報告をおこなった。防災危機管理課、区民課、社会福祉協議会と団体金子が出席した。

2025年

⑫ 7月～地図掲載地域の調査用地図を作成し、講習会と追加調査後に地図を作成（校正作業含む）した。

⑬⑭ 10月～12月：講習会終了後に、団体を中心に地図情報確認のための追加調査をおこない、地図情報の加筆修正をおこなった。地図裏面掲載情報について各町会から原稿と写真の提供を受けた。裏面情報の校正を防災危機管理課、各町会、社会福祉協議会に依頼し、地図の加筆修正をおこなった。

担当課：

町会内を参加者が実際に歩いて防災・バリアフリーマップを作成することで、普段通っている場所でも新しい発見に気が付き、防災への関心を高めていく様子が多く見られた。町会員同士が直接顔を合わせる機会があることで、災害時に連携しやすくなると考えられることから、地域の実情や要望に応じた支援をお願いしたい。

町会

各町会の方の意見を聞いて我々が住んでいる地域の良さ及び問題点が改めて確認できた。今後の防災活動に生かしたいと思う（富士前町会）。若い世代にも積極的に参加してもらいたい。それが継承に繋がる（富士前町会）。普段自分が生活

<p>事業に対する協働団体からのコメント</p> <p>(担当課からのコメント必須、他は自由記述)</p>	<p>する町でも、小さなことに目を向けて見たり見つけたりして、それを人に伝えていければ良いと思った(神明西部町会)。まち歩きと他町会の皆さんとの交流を通して、町全体を把握すること、お互いに協力し合って防災に取り組むことの大切さを学びました(神明上町会)。年令や色々な職業の人達と話しながら町を見て歩いて新鮮な感覚で良かった(神明上町会)。避難所まで1番遠い町会で、高齢化が進んで、エレベーターが止まったら皆さん動きがとれない。在宅避難を進めている(本駒自治会) 今回のような、いくつかの町会のマップや意見をまとめるやり方なのを活用していきたい(本駒自治会)。段差や坂が多くてビックリした(吉片町会)。イベントを通じて多くの人と繋がりたいと思った(吉片町会)。</p> <p>大学生・一般参加者・スタッフ</p> <p>防災設備が数多くあった。まさかの時に使えるような安心感を持てた。あとは落ち着いて行動できるかにかかっているように思う。(スタッフ)。車いすで安全に動けるかという違う視点でみるとずいぶん変わってくると実感できた、勉強になった(曙町会民生委員)。今後町を歩く際の視点が大きく変わると思う(一般参加者)</p>
<p>利用者からのコメント</p> <p>(アンケート結果など)</p>	<p>講習会では防災やバリアフリーの視点を持つことができ、自分の住む地域に対して見方が変わった、地域の方々と繋がる大切さがわかった、知らない人に伝えていきたい等の意見が多くあった。一人一人の防災意識が高まっただけでなく、他の人々にも伝えたいという気持ちの高まりを感じた。</p> <p>(アンケートより)</p> <p>第1回講習会：防災に対する意識は変わりましたかに対して 向上したとの回答が22名、どちらでもないが3名となった。向上したとの回答方からは、自分たちの町の防災に関心を持つようになった(本駒自治会)、建物の代替わりもあり、住宅地の道価も変わりつつあることを感じた(吉片町会)などの意見があった。</p> <p>第2回講習会：防災に対する意識は変わりましたかに対して、向上したとの回答が13名、どちらでもないが1名となった。向上したとの回答方からは、いつも何気なく歩いている所を改めて知ることの大切さを知りました(本駒自治会)。普段歩いている地元でも知らなく又、気づかない事が多くあり意識が変わった(富士前町会)などの意見があった。</p> <p>*第3回校正と裏面については、アンケートをとってはいないが、参加された町会の皆さんからは改めて自分の住む町の良さや危険箇所を知る事ができて満足であるという意見を頂いた。</p>

<p>協働による効果</p>	<p>防災・バリアフリーマップを、防災危機管理課および地域に精通した社会福祉協議会と協働して作成したことにより、それぞれの強みが活かされた効果的な取り組みとなった。防災危機管理課が持つ専門的な防災・減災や災害対応の知識を地域住民と共有することで、実践的で信頼性の高い情報を地図に反映することができた。また、社会福祉協議会の地域理解とネットワークにより、多様な立場の声を丁寧に拾い上げることが可能となった。さらに、NPOとしてのきめ細やかな視点や配慮を加えることで、利用者に寄り添った実用的な内容となった。加えて、地域の人々が主体的に参加し、意見を出し合いながら作り上げたことで、完成した地図への愛着と達成感が生まれ、地域への関心や防災意識の向上にもつながった。これらの相乗効果により、地域に根ざした実効性の高い地図づくりが実現できたことが、協働による大きな成果である。</p>
<p>成果目標の達成度 (スタートアップ会議・中間報告会を通じて設定した目標について結果はどうだったか、そう判断した根拠を記載してください)</p>	<p>町会、民生児童委員、学校、NPO、学生などが協力して地図作りに取り組むことで、住民間の信頼関係が深まり、地域の連携が強化される。多様な視点が共有されることで、地域の新たな課題や改善策が見つかり、防災やバリアフリーへの意識も高まることを成果目標として本事業を実施した。防災とバリアフリーまち歩き調査の実施により、参加者は防災意識およびバリアフリーへの理解を深め、日常のまちの見方を見直す機会となった。「車いすでの安全性の違いに気づいた」「防災を身近に考える機会となった」「ハザードマップでは分からない実態を知ることができた」といった声が寄せられたほか、「坂に囲まれ避難が困難」など具体的な課題認識や、「改善すればより良くなる」といった前向きな意見も得られた。また、「知らない町会の人と顔見知りになった」など地域内の交流が促進され、コミュニティのつながり強化にも寄与した。さらに、これまで町会活動に関わりの少なかった住民に対しても、地域活動の存在や意義を周知する契機となり、地域コミュニティへの関わりの拡大が期待される。防災イベントは主に若い世代・子育て世代をターゲットとして開催した。普段町会に関わる事が少ない層の参加はコミュニティの広がりや多様性の向上につながるものである。地図のお披露目では見やすさへの評価や増刷要望もあり、防災意識の高まりが確認された。一方で、さらなる参加促進に向けた広報強化の必要性も明らかとなった。</p> <p>後日、町会で話し合いをおこない、効果的な配布方法や活用方法を考えている旨連絡を頂き今後の地図の活用が期待できる結果となった。</p>

<p>今後の活動予定 (Bチャレでの成果を踏まえて、今後はどう展開されるのかを記載してください)</p>	<p>今回参加された町会より、今後効果的な地図の配布、使い方を各町会長と相談しているご連絡を頂き、地図更新や地元小中学校のイベントがあればお手伝いすることをお伝えした。この3年間で関わりをもつことができた地域で何かしら活動をしていきたい。あわせて防災・バリアフリーマップを広げることができるような活動方法を考えたい。</p>
---	--

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添3：事業実施にかかった費用の領収書

⑰最終報告													●
フミコム/関係課との会議	●							●	●				●

*列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

別紙2：収支報告書

団体名：特定非営利活動法人リーブ・ウイズ・ドリーム

収入 650,494 円

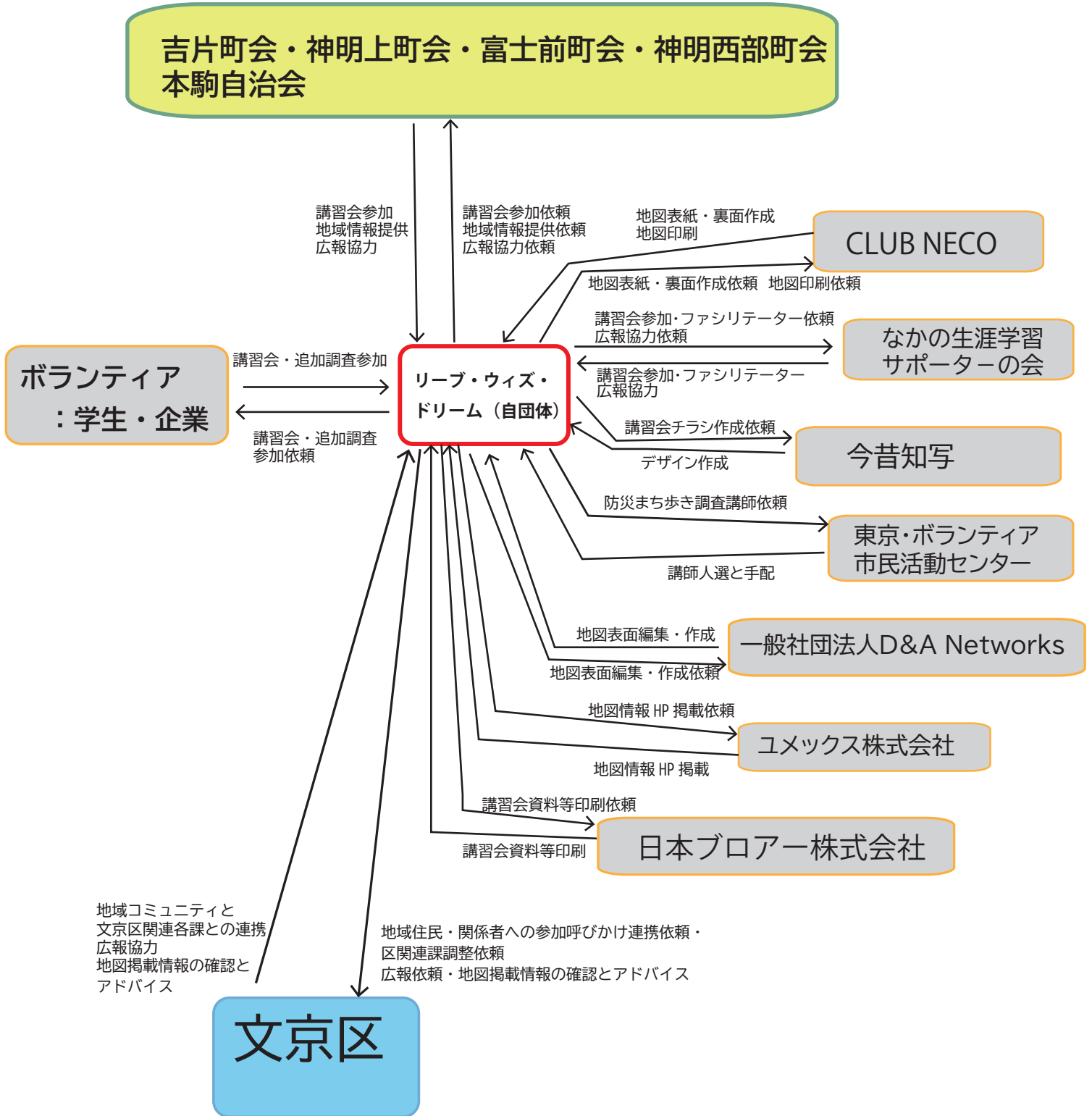
費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	588,000 円	
自己資金	62,494 円	
	円	

支出 650,494 円

費目	予算額	積算根拠
講師謝金	20,000 円	防災まち歩き講師 @20,000×1人×1回
防災まち歩きファシリテーター謝金	10,000 円	防災まち歩き講師 @10,000×1人×1回
防災・バリアフリーまち歩き調査スタッフ謝金	77,400 円	支出内容・単価・内訳等別紙
防災イベントスタッフ謝金	45,600 円	支出内容・単価・内訳等別紙
追加調査スタッフ謝金	33,200 円	支出内容・単価・内訳等別紙
スタッフ交通費	34,646 円	支出内容・単価・内訳等別紙
行事保険	10,012 円	講習会1回～3回 防災イベント
印刷費1	45,174 円	地図印刷費 2,000部両面カラー折り入稿 手数料込み
印刷費2	7,160 円	チラシ 2回 各300部 片面4色

印刷費3	13,653 円	講習会資料・打ち合わせ資料
地図表紙・チラシデザイン費	41,000 円	地図表紙・チラシデザイン
地図作製費 1	150,000 円	地図表面デザイン作成
地図作製費 2	60,500 円	地図裏面デザイン作成
イベント開催費	80,000 円	プレーカー、会場費
地図ホームページ公開	7,920 円	団体HP掲載
郵送費	1,400 円	チラシ発送 フミコム
文具	9,212 円	講習会・イベント用文具
手数料	3,617 円	行事保険振込手数料（講習会3回・防災イベント1回）1回203円 他振込手数料

別紙3：関係者マップ（報告版）



吉片町会・富士前町会・神明上町会・神明西部町会・本駒自治会 編

2025 防災 バリアフリー マップ

文京区

2025年度
文京区社会福祉協議会 フミコム
Bチャレ 提案公募型協働事業

Produced by NPO Live With Dream

企画・編集・発行:NPO法人リープ・ウィズ・ドリーム
発行日:令和8年2月(第1版)

◆水害ハザードマップ・防災関係資料提供:
文京区

◆協力:
吉片町会、富士前町会、神明上町会、神明西部町会、本駒自治会の皆さま
東京都ボランティア・市民活動センター
一般社団法人 災害協働サポート東京
文京区立本郷福祉センター 若駒の里
こみゆ動坂
法政大学、東洋大学、拓殖大学の皆さま

◆バリアフリーまち歩き調査 車いす借与
本郷福祉センター若駒の里

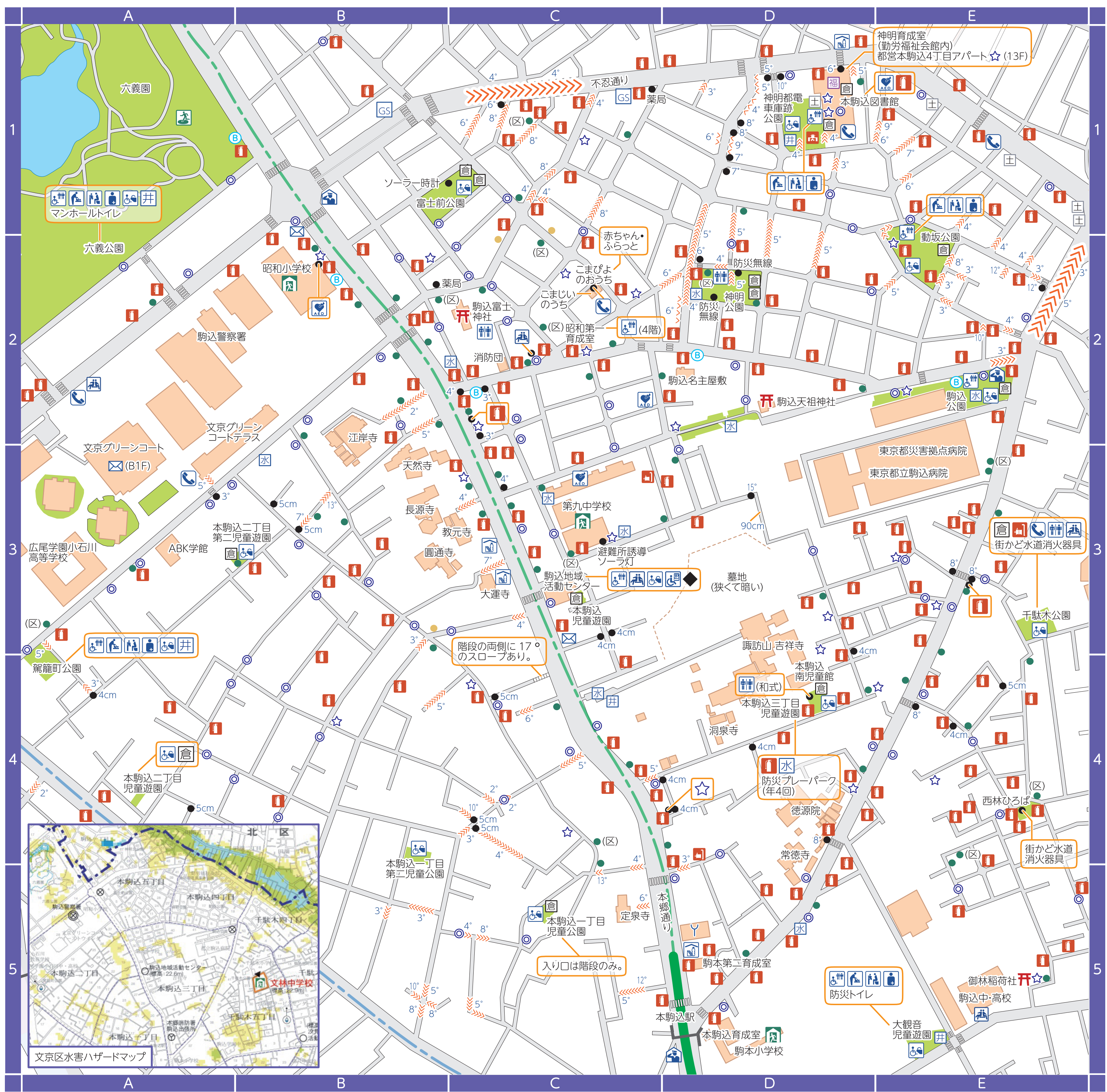
◆免責事項
文京区およびNPO法人リープ・ウィズ・ドリームは、利用者が当図の記載情報を利用して行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。

◆令和7年10月から12月までの防災・バリアフリーまち歩き調査他の結果に基づいて作成しておりますので、実際の道路状況等が変化している場合があります。
安全については各自の責任の下、十分に気を付けてまち歩きをお楽しみ下さい。

※この地図は、NPO法人リープ・ウィズ・ドリーム のホームページからご利用頂けます。
(<https://www.tokyo>)

※お問い合わせ先
・NPO法人 リープ・ウィズ・ドリーム
(E-mail:machi-aruki-chiyoda@clubneco.com
ホームページ:<https://lwd.tokyo/>)

◆このマップは、文京区社会福祉協議会Bチャレ(提案公募型協働事業)による助成を受けて作成されました。



<<地図凡例>>

◆バリアフリー関係

- 車いす使用者対応トイレ併設
- おむつ替えシート
- ベビーチェア
- オストメイト
- 車いす使用者対応エレベーター
- 車いす使用者対応駐車スペース
- 車いす使用者対応水飲み場
- スロープ
- ベビーケアルーム・授乳室
- 5°以上の傾斜あり (●は数値。例:7°)
- 5cm以上の段差あり (●は数値。例:7cm)
- 低 高 坂(勾配あり)

※傾斜角度については、測定する位置により、表記した数値と異なる場合がありますので、目安とお考えください。

◆防災関係

- 土のうステーション
- 緊急避難場所
- 防災資器材格納庫
- スタンドパイプ
- 消火器
- 大型消火器
- 防火水槽・貯水槽
- 消火栓
- 街かど水道消火器具
- かまどベンチ
- 自動販売機(防災ベンダー)

◆共通

- コンビニエンスストア ※出入口がフラットかスロープがある。
- 公衆電話
- 階段
- AED設置 (区公共施設のみ表示)
- 車いす対応自動販売機
- 文京区コミュニティバス B-ぐるバス停
- 注意
- 一般トイレ
- 消防署
- 神社
- 警察署・交番
- 郵便局
- 避難所
- 福祉避難所
- ガソリンスタンド
- 井戸
- 掲示板
- 病院

※地図にはすべての施設・設備を掲載していません。ご利用の際にはご確認されることをお勧め致します。

わが町のいいところ 1

神明上町会

駒込名主屋敷（高木家）は、江戸時代初期から現在のこの地（駒込村）に代々住み続け、歴史を受け継いできました。敷地内には、表門、表門から敷地の奥へ延びる石畳、母屋、土蔵、離れ、洋館などがあり、母屋東側には復元された井戸もあります。子どもから大人まで歴史好きにはたまらない貴重な建造物です。関東大震災や戦災をまぬがれて、現在も引き継がれています。現在の第九中学校や駒込地域活動センターはかつて高木家の土地で駒込名主屋敷の一部でしたが、地域のために寄付をされています。

駒込名主屋敷



屋敷内の井戸



町会の中に、このような歴史的建造物が残っていることは、町の誇りです。また、神明公園、駒込天祖神社、駒込名主屋敷には緑が多く、野鳥の楽園です。

朝、鳥の声で目覚める自然豊かな町こそ「わが町のいいところ」です。

神明西部町会

「お年寄りや子供に優しい街づくりは人に優しい街づくりにつながる」との思いで町会活動を行っています。地域の自慢は「こまじい」、「こまびよ」です。

こまびよのおうち



こまじいのうち



「こまじいのうち」：地域の寄合場、趣味の集まり場。子ども食堂もおこなっています。赤ちゃんからお年寄りまで利用することができます。

（住所：本駒込5-11-4）

「こまびよのおうち」：地域の子育て支援拠点。3才未満のお子さんとお母さんの息抜きの場所です。「赤ちゃん・ふらっと」届出施設。

（住所：本駒込5-11-6 こまじいのうち隣）

本駒自治会

神明都電車庫跡公園 本駒込四丁目の都電が置いてある公園です。以前は都電の神明町の車庫跡でした。公園内には都電6000形一両と、貨物車の乙1形の乙2号一両が保存されています。この公園にはインクルーシブ遊具（障がいの有無や国籍などに関わらず、あらゆる方々が遊べる遊具）、大型消火器、かまどベンチ、防災井戸などがあります。



わが町のいいところ 2・・・寺社仏閣 緑豊かな町

この地域は、歴史ある寺社仏閣と趣ある公園が点在する、緑豊かなまちです。四季折々の草木に包まれた境内や公園は、散策や憩いの場として親しまれ、地域の人々が自然と集い、交流が生まれる場所となっています。静けさにぎわいが心地よく調和し、日常の中で歴史と自然を感じられる駒込は、暮らす人にも訪れる人にもやさしい魅力あふれるまちです。

曹洞宗 諏訪山 吉祥寺



天祖神社



富士神社



なぜこの地域には寺社仏閣が多いのでしょうか？

駒込に寺社仏閣が多い最大の理由は、1657年の明暦の大火後に行われた江戸の都市改造にある。幕府は防災と都市計画の一環として、神田や湯島など中心部の寺院を郊外だった駒込周辺へ移転させ、延焼防止と用地確保を図った。

さらに駒込は江戸北方の境界に位置し、日光御成街道沿いの要地であったため、寺院を配置して防衛線と都市の区切りを明確にする意図があり、寺町が形成された。加えて、徳川ゆかりの古刹の存在や武家屋敷跡地の転用、高台で静かな地形条件も寺院集積を後押しし、現在の寺社の多い景観につながっている。

まちのバリアフリー施設を確認してみましょう



車いす使用者対応の自動販売機



休憩用のイス



公園入口の案内



車いす使用者対応公衆電話

防災士への補助金情報

防災士資格を取るための区の補助金情報
→防災士認証登録支援助成金と防災士スキルアップ助成金の制度があります。詳細は、以下の区ホームページをご参照下さい。助成対象の要件等があるため、ご希望の方にはまず、防災危機管理課にご連絡することを願っています。

防災士認証登録支援助成金
防災士スキルアップ助成金



区ホームページ

身の回りにある防災設備を確認してみましょう



ど土のうステーション

大雨や台風等の浸水被害に備えて、地域住民が自由に利用できる土のう置き場



避難所誘導ソーラー灯

太陽光（ソーラー）で発電し、停電時や夜間の避難所の視認性を高める照明器具



ソーラー時計

停電時でも機能する太陽光発電設備を備えた時計は、時間などの重要な情報を確認できる手段となる



街かど水道消火器具

街かど水道消火器具
水道水を使った初期消火器具で、一人で素早く扱える



中には？



大型消火器

大規模火災に対応するため薬剤量が多く（20kg以上など）、車輪が付いて移動が容易なのが特徴



公衆電話内の表示

110番(事件・事故) 119番(火事/救急)の他にも171番(災害用伝言ダイヤル)の番号も表示されている



防火水槽

消防活動に必要な水を貯めておくための貯水設備



防災協定井戸

災害時に区民等の生活用水として井戸水を提供することに所有者が承諾した井戸



かまどベンチ

普段は公園などでベンチとして利用できるが、災害時には座板（座る部分）を外したり持ち上げたりすることで、炊き出し用の「かまど」になる防災設備
覚えて安心 文京区にある災害時給水ステーション
本郷給水所：本郷2-7-29
区立教育の森公園：大塚3-29

第九中学校避難所

吉片町会、富士前町会、神明上町会、神明西部町会の4町会と本駒自治会のエリアにお住まいの方の避難所は第九中学校です。



避難所（区立小・中学校等）別対象町会一覧表

吉片町会 富士前町会 神明上町会 本駒自治会

町会・自治会の活動への参加方法、活動内容、会費等に関することは、各町会・自治会にお問い合わせください。連絡先がご不明の場合は、下記の地域活動センターまでお問い合わせください。駒込地域活動センター 03-3824-5801

神明西部町会：<https://shinmeiwest.jimdoweb.com/>

消防団員について：消防団の活動内容や加入に関するお問合せは以下をご確認下さい

1. 最寄りの消防署へ問合せ
地域の消防団について詳しいので、1番目としておすすめします。
2. ホームページから、特別区内消防団への入団エントリー
消防団全体のことかわかるので、2番目としておすすめします。
ここでエントリーされると、各消防署に情報が送られて、消防署からエントリーした方に連絡が入る仕組みです。

どこに避難する？避難所と緊急避難場所の違いとは

地震時に自宅が倒壊した場合等は、区立小・中学校等の避難所へ避難しましょう。火災による避難指示等があった場合は、自宅で被災した直後でも、避難所に避難しているときでも、身を守る広い場所の緊急避難場所に避難していただきます。（文京区防災ガイド、5ページの文京区の避難方式（基本的な避難のパターン）から）

文京区防災アプリも平時から利用してみましょう：区民（在住者・在勤者・在学者）、来訪者を問わず、誰でも利用できる防災ツールです。文京区が発信する各種防災関連情報をリアルタイムに受信できます。

AppstoreまたはGooglePlayからダウンロードしてください。（無料）



Appstore (iPhone端末)の方 GooglePlay (Android端末)の方

防災倉庫には何がはいっているの？

非常食（わかめご飯、飲料水等）
粉ミルク、電源関係（発電機等）、投光器、避難者生活用品（毛布等）、衛生用品関係（簡易トイレ等）（文京区地域防災計画（令和6年度修正【資料編】、111ページから抜粋）

*地域・町会によって備蓄品は様々です。機会をみつけて、何が備蓄されているか確認してみてください。

家に備蓄しておくもの。お勧め

備蓄品は多めにー1人が1日に必要な水の量は3ℓ
備蓄品は1週間分（最低3日分）が必要です。しかし、集合住宅の場合、エレベーターが停止している間は物資を運ぶのが非常に困難な上、電気が止まれば水も止まります。そのため、浴槽に水を貯め置きする、水を使わない簡易トイレやカセットコンロ・ガスボンベなどを備蓄しておくなど、日頃から備えておきましょう。（文京区防災ガイドP10から抜粋）

2025年「防災・バリアフリーマップを作ろう」講習会の様子

10月5日(日)第1回目講習会と防災まち歩き調査 講師：災害協働サポート東京 福田氏 講習会の後、町会ごとに防災まち歩き調査をおこないました。

参加者からの声：・あちこちに消火器があることに驚いた。普段は意識していない防災事について知る機会になって参加して良かった。・「消火器や消火栓等の防災設備が、かなりの数、道路に配置されていることに気付いた。まさかの時に使えるような安心感を持てた。あとは落ち着いて行動できるかにかかっているように思う。・インターネットでただハザードマップを見るだけでは分からない多くの現状を知ることができました、いざという時は実際に歩いた町のほうが対応しやすいと思いました。

10月25日(日) 第2回目講習会とバリアフリーまち歩き調査 講習会の後、町会ごとにバリアフリーまち歩き調査をおこないました。

参加者からの声：・今後町を歩く際の視点が変わると感じます。・坂道がある事は理解していたが、段差の多さにびっくりした。・まだまだ町の中はバリアフリーの状況になっていないことがわかった。

11月22日(土) 地図情報の確認と地図裏面内容について

防災まち歩き調査とバリアフリーまち歩き調査の結果を確認後、地図の裏面にどのような内容を掲載するかを話し合いました。

参加者からの声：・今回、まち歩きと他町会の皆さんとの交流を通して、町全体を把握すること、お互いに協力し合って防災に取り組むことの大切さを感じた。・各町会の方の意見を聞いて我々が住んでいる地域の良さ及び問題点があらためて確認できました。



令和7年度

防災 バリアフリーマップを 作成してみよう！

防災とバリアフリーの視点でまちを歩いて調査する

第
1
回

防災まち歩き調査

10月5日(日) 13:30~16:30

防災視点でのまち歩き調査

講師：福田信章氏

まちの防災施設や設備などを調べる

(災害協働サポート東京)

第
2
回

バリアフリーまち歩き調査

10月25日(土) 13:30~16:30

バリアフリーの視点でのまち歩き調査

講師：金子久美子

まちにある坂の傾斜や段差、

バリアフリー施設等を調べる

(NPO法人リーブ・ウィズ・ドリーム)

第
3
回

調査まとめ

11月22日(土) 13:30~16:30

防災まち歩き調査とバリアフリー

まち歩き調査の情報のまとめ

地図の形を作る

進行：金子久美子

(NPO法人リーブ・ウィズ・ドリーム)

○ 対象

吉片町会・富士前町会・神明上町会・神明西部町会
本駒自治会の町会員、文京区在住・在学・在勤
防災やバリアフリーに興味のある方

○ 定員

20名

○ 場所

駒込地域活動センター 2階多目的室
(文京区本駒込三丁目22番4号)

○ 参加

無料

申込・お問い合わせ先 NPO法人 リーブ・ウィズ・ドリーム

右記のお問い合わせフォームに、必要事項（氏名、所属、
電話番号、メールアドレス、参加可能な日付）を入力下さい。

申し込み締め切り：各回開催1週間前迄（各回のみ参加も可能です）



この事業は、文京区社会福祉協議会 Bチャレ(提案公募型事業)の助成金で実施しています。

防災・バリアフリーマップお披露目会 & 防災遊び場「あそぼうさい」イベント開催

防災・バリアフリーマップお披露目

吉片町会・富士前町会・神明上町会・神明西部町会・本駒自治会のみなさんが、町会内を歩いて調べて作った「防災・バリアフリーマップ」が完成しました。まちの防災設備やバリアフリー情報が掲載された地図を是非ご覧下さい。

遊びながら学べる×防災 = ”あそぼうさい”



巨大コリント&ピタゴラ装置、昔遊びや打楽器、段ボールや紙管の素材あそび、積み木やおままごと、ハンモックや綱引き、トランポリンなど沢山あります。さらに、こども防災活動家かーびーによる「じじじ地震だゲーム」や「防災サバイバルワークショップ」「いろいろな被災地の写真の展示」もあります。

日時

2026年2月21日(土) 13:00~16:00

※受付開始: 13:00 ※最終入場: 15:30

※雨天決行・荒天中止となります。中止の場合は当日10:00迄にリーブ・ウィズ・ドリームホームページ(<https://www.lwd.tokyo/>)に掲載致します。

対象

吉片町会・富士前町会・神明上町会・神明西部町会・本駒自治会地域にお住まいの方等
プレーカーイベント対象: 乳幼児連れの方、小学校低学年のお子様(保護者同伴)

定員

80名程度

注) 予約のない方は、会場受付で行事保険の加入のため、お名前の記入をお願いします

会場

駒込富士神社境内(文京区本駒込5丁目7-20)

参加費

無料

イベントに取材がはいります。撮影不可の場合は受付時にお申し出下さい



こども防災活動家 かーびー

申込・お問い合わせ先 NPO法人リーブ・ウィズ・ドリーム

右記のお問い合わせフォームに、氏名と参加人数を入力下さい

申し込み締め切り: 2026年2月12日(木)



この事業は、文京区社会福祉協議会 Bチャレ(提案公募型協働事業)の助成金で実施しています



防災まち歩き
～みんなで歩く地域のことよくわかる～

災害対策特別委員会 防災課
事務局 防災課
2025年10月25日(土)





















